

特別講演 2

「進行肝細胞癌治療に挑む

～テセントリク+アバスチン併用療法の実力～」

千葉大学大学院医学研究院 消化器内科学 教授

加藤 直也 先生

我が国における肝疾患の原因の多くはB型・C型肝炎などのウイルス感染症であることが以前より知られていますが、近年は非アルコール性脂肪肝炎（NASH）やアルコール性を含む非 B 非 C 型が原因の肝疾患が増加傾向にあり、特に肝発癌が大きな問題となっています。肝細胞癌による年間死亡者数は3万人を超えており、ウイルス慢性肝炎のウイルス制御が可能となりつつある現在でも、肝細胞癌治療が極めて重要であると考えております。

2020年9月、アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法が切除不能な肝細胞癌に対して本邦で承認されました。2021年10月には、肝癌診療ガイドライン 2021年版が刊行され、アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法は、切除不能進行肝細胞癌の一次薬物療法として推奨されております。

本講演では、アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法における臨床成績や副作用マネジメントとともに、今後の進行肝癌治療戦略についてお話させていただきます。